

科目名	近現代哲学特殊研究	担当者	オカヤマ ケイジ 岡山 敬二	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、現代社会の成立を促してきたはずの近代の世界観や価値観のなりたちや、その可能性と限界を根本から見つめなすことのできる哲学的な視野を修得することにより、以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>大量破壊兵器や環境破壊、脳死や臓器移植、遺伝子組み換えの問題など、近現代の技術文明がもたらした様々な課題の意味を探り、これに適切に対応するために（【A-4:4】「問題発見・解決力」）、人間や生命、自然や社会の営みのすべてを一律に、技術的に計算・予測可能な資材や人材と見立てる考え方について、その可能性や限界を見つめなおすことができる（【A-3:4】「論理的・批判的思考力」）。</p> <p>近代にはじまる技術の世界に生きている、この現代的状況を見据えながら（【A-2:4】「世界の現状を理解し、説明する力」）、日常生活や科学知の自明な前提を超えて（【A-5:4】「挑戦力」）、人間と自然や社会、世界のありようを根本から見つめなおすことができる（【A-1:4】「豊かな知識・教養に基づく高い倫理観」）。</p> <p>【日本大学教育憲章ルーブリック該当番号：A-1:4, A-2:4, A-3:4, A-4:4, A-5:4】</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>近代以降の世界観、価値観の自明性の問題点を根本から見つめなおすために、既成の価値や観点到に縛られずに様々な立場や視点を理解、想像し、それらを柔軟に比較・検討することができる哲学的な考察態度を身につける。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>i. 西洋の存在論をめぐる哲学的な問題を理解し説明することができる。(知識・解釈)</p> <p>ii. 西洋文明が招いた様々な問題の根拠を理解し説明することができる。(知識・想起)</p> <p>iii. 近現代社会の様々な問題の解決の可能性を多角的な視野から指摘することができる。(知識・問題解決)</p> <p>iv. 近現代社会の諸問題について、様々な立場や見解の比較・検討・考察を実施することができる。(技能)</p> <p>v. 様々な立場や見解を配慮し、自らの考えをうまく伝え、他者と柔軟にコミュニケーションすることができる。(態度・習慣)</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>基本教材を丁寧に読み解きながら、日常生活や科学知の自明性のありよう、それがなりたつ根拠を丹念に考察してゆく。</p> <p>i. 基本教材および参考文献の読解と解釈：【20 時間以上／レポート 1 本】</p> <p>ii. レポートの執筆：【10 時間以上／レポート 1 本】</p> <p>iii. manaba folio への複数回の提出を通じてのレポートの推敲と最終稿の完成：【15 時間以上／レポート 1 本】</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を実施してゆく。</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>① 基本教材及び参考文献の熟読 (自習) 【SBO i.】：【10 時間以上／レポート 1 本】</p> <p>② レポートの課題に沿った、基本教材の読解と解釈 (自主研究) 【SBO ii.】：【10 時間以上／レポート 1 本】</p> <p>③ レポートの作成 (レポート作成) 【SBO iii.】：【10 時間以上／レポート 1 本】</p> <p>④ manaba folio を利用した複数回のレポート添削による教員とのディスカッションを重ねての、レポートの推敲と最終稿の完成 (ディベート) 【SBO iv. & v.】：【15 時間以上／レポート 1 本】</p>		
スケジュール	<p>最終稿提出は、前期・後期それぞれの提出期限に従う。初稿提出期限の目安は以下の通りとする。</p> <p>前期 (基本教材 1)：レポート課題 1 (7 月 15 日) / レポート課題 2 (8 月 15 日)</p> <p>後期 (基本教材 2)：レポート課題 2 (11 月 15 日) / レポート課題 2 (12 月 15 日)</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	70 %	教材の適切な読解・解釈を踏まえた、レポート課題に沿う論述・表現であるか。
	平常評価	30 %	複数回の添削指導を経たうえで、その指導に適切に対応できているか。
履修者への要望	<p>教材の文章や参考書の説明を単なる情報として受け取り、その切り貼りを伝達するという読み方、伝え方をしても、どうしても、中味が伝わらないだけでなく、内容におかしな面が出てこざるをえません。何がどうわかり、どうわからないかを自分で考え、自分の言葉で整理し、伝えることによって始めて、それは生きた言葉、内容をともなう言葉となるように思われます。それなりにでもいいですから、「自ら考える」という姿勢を忘れないようにしてください。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『ニーチェ I 美と永劫回帰』(平凡社ライブラリー, 1997年) ISBN:978-4-582-76179-5 1,553円+税
	プラトン以来、「存在とは何か」を問うてきた西洋哲学(形而上学)の存在論の歴史のなかにニーチェを位置づけなおし、ニーチェ哲学との対決を通して、伝統的な存在論の解体を試みる一連の講義の邦訳です。そのうち、「芸術としての力への意志」(第一講義)と「同じものの永遠なる回帰」(第二講義)の二つの講義が収録されています。ニーチェの芸術観や永遠回帰思想について存在論の歴史という観点から独自の解釈が施されてゆきます。
参考図書	木田元『ハイデガー』(岩波現代文庫, 2001年) ISBN:978-4-00-600067-7 1000円+税 木田元『ハイデガーの思想』(岩波新書, 1993年) ISBN:978-4-00-430268-4 800円+税 高田珠樹『ハイデガー 存在の歴史』(講談社学術文庫) ISBN:978-4-06-292261-6 1,200円+税
履修上のポイント	第一講義は、おもに、ニーチェ最晩年の遺稿『力への意志』にまとめられた断片を手がかりにして、ニーチェの哲学の再構築が試みられています。「力への意志」とその現象形態としての芸術との関係、ニーチェの芸術観が、存在論の歴史という観点から、どう解釈されてゆくのかをおさえてください。 第二講義では、ニーチェの『悦ばしき知識』と『ツアラトウストラはこう語った』を丹念に読みと きながら、永遠回帰説に独自の解釈が施されてゆきます。とくに『ツアラトウストラはこう語った』第三部の「幻影と謎」「恢復しつつある者」の解釈がこの講義の圧巻であり、おさえどころです。
レポート課題 1	「力への意志」と芸術(美)との関係について、形而上学という点から論説してください。 留意点： ニーチェの芸術論に対して、カントの美学、ニーチェのワグナー批判、プラトンの芸術論がどう位置づけなおされるのかをおさえてください。
レポート課題 2	「同じものの永遠なる回帰」と「力への意志」の関係について、存在者の全体という点から論説してください。 留意点： 本質存在と事実存在との区別がプラトン、アリストテレス以後の形而上学の歴史を規定するとはどういうことかをおさえてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： マルティン・ハイデガー 教材名： 『ニーチェ II ヨーロッパのニヒリズム』(平凡社ライブラリー, 1997年) ISBN:978-4-582-76184-9 1,553円+税
	プラトン以来、「存在とは何か」を問うてきた西洋哲学の存在論の歴史のなかにニーチェを位置づけなおし、ニーチェ哲学との対決を通して、伝統的な存在論の解体を試みる一連の講義の邦訳です。そのうち、「認識としての力への意志」(第三講義)と「ヨーロッパのニヒリズム」(第四講義)の二つの講義が収録されています。ニーチェの真理論、ニヒリズム論について存在論の歴史という観点から独自の解釈が施されてゆきます。
参考図書	木田元『ハイデガー』(岩波現代文庫, 2001年) ISBN:978-4-00-600067-7 1000円+税 木田元『ハイデガーの思想』(岩波新書, 1993年) ISBN:978-4-00-430268-4 800円+税 高田珠樹『ハイデガー 存在の歴史』(講談社学術文庫) ISBN:978-4-06-292261-6 1,200円+税
履修上のポイント	第三講義では、ニーチェの真理論が論じられています。プラトン以来の伝統的な形而上学における真理観とニーチェの真理論がどういう意味で対比されているのかをおさえてください。 第四講義では、ニーチェのニヒリズム論が集中的に解釈されています。プラトン以後の西洋哲学の全体がプラトニズムすなわちニヒリズムであり、それを克服するニーチェの試みもプラトニズムの枠内にあるとはどういうことかをおさえてください。
レポート課題 1	真理が一つの価値、一種の誤謬であるとはどういうことかについて、「力への意志」という点から論説してください。 留意点： 「力への意志」にとっての二つの価値の関係と相違、伝統的な真理観とニーチェの真理論との対比の意味をおさえてください。
レポート課題 2	ニーチェ哲学が西洋形而上学の完成形態であるとはどういうことかについて、「ヨーロッパのニヒリズム」という点から論説してください。 留意点： プラトン以来のヨーロッパの哲学史が「存在忘却」の歴史であり、その歴史の終局にニーチェの哲学も位置づけられることの意味をおさえてください。